

会議録

会議の名称	令和３年度 第５回座間市地域包括ケア会議及び在宅医療推進協議会			
開催日時	令和 ３年 １１月 ９日（火）１８時３０分～１９時３０分			
開催場所	サニープレイス座間 多目的室			
出席者	松山委員、後藤委員、藤井委員、石黒委員、石川委員、大石委員、 加藤委員、藤川委員、坂間委員、吉永委員、樋口委員、松永委員 金子委員、川南委員、高間委員、平原委員、村上委員、落合委員 座間市在宅医療連携支援室 比留川室長、大森相談員、野中相談員 座間市認知症初期集中支援チーム 和田氏			
事務局	健康部介護保険課地域支援係 小林係長、田中保健師、植野主事、蒲田主事補、 会計年度任用職員 柴原、福澤			
会議の公開可否	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開		傍聴者数	０人
非公開又は一部公開とした理由	座間市保健医療福祉サービス介入ネットワーク要領第4条第2項によるため			
議題	議題１ 各会議からの報告 （１）包括ケア会議から報告 （２）在宅医療推進協議会より報告 議題２ 認知症初期集中支援チームからの活動報告 議題３ その他 （１）会議の運営について			
資料の名称	１ 令和３年度第５回座間市地域包括ケア及び在宅医療推進協議会会議次第 ２ 第３回座間市地域包括ケア会議 会議録 ３ 第４回座間市在宅医療推進協議会 会議録 ４ 座間市認知症初期集中支援チーム令和３年度前期報告書 ５ 認知症初期集中支援チームチラシ ６ 在宅医療・介護連携推進事業に関する市町村の取組状況			
会議の結果				
委員	包括ケア会議からの報告 危機管理課との地域課題検討会議について、相模が丘包括の実施内容をメインに話し合いをした。度重なる延期の末、立野台包括は１１月２５日に実施予定である。			

	<p>前半は危機管理課の講義、後半は意見交換を想定していた。相模が丘地域で実施したところ、そこまで意見交換がさかんではなかったと報告があった。全体の開催時間は1時間程度とし、企画段階では危機管理課の講義が30分程度、後半は各包括でどのようにするかを考えるという方向性だったが、実際は危機管理課の講義に45分程度を要し、グループワークや意見交換については地域によって盛り上がって時間が足りなかったり、話がでなかったりと色々だった。</p> <p>災害や防災が地区ごとの各々の課題なのか、市全域で取り組むべき課題なのかについて、今後の包括ケア会議では話をしていく。</p> <p>災害や防災に関しては定期的に行ったほうがいいのか、継続の必要があるか、今回は包括主体で実施したが、民生委員や自治会等の団体でも同様に取り組んでいく必要があるのかについても子会議で検討していく。</p>
委員	<p>相模が丘は平坦で水災害の危険性が低いということもあり、議論が活発にならなかった。実施してみての感触や課題について各包括から発表してほしい。</p>
委員	<p>災害のニュースを耳にする機会も多くあり、参加者の関心が大きかった。当初予定していた日が豪雨で警報が出て中止になった。そのような背景から、非常に真剣に聞いていた。ただ、危機管理課からの説明が沢山あり、その場で質問を受け付けることができなかった。事前質問にはしっかり回答してもらい充実していたと思う。</p>
委員	<p>民生員を中心に30名程度の参加があった。参加者は真剣に聞いていた。相模が丘と同様、平坦な地域で災害が少ないためか、講義後の話合いが盛り上がらなかったのは残念だったが、参加者からは、まずは自分と家族の身を守るための準備を始めるとの声が聞かれた。地域に広く広げていくことはまだまだだと感じた。</p>
委員	<p>新田宿は浸水しやすい地域であり、台風19号の際は実際に避難した地域も複数あった。その経験からアンケートからは1時間では足りない、消化不良だという声が多かった。時間が取れなかった質問はアンケートに記入してもらい、危機管理課からの回答を参加者全員に郵送した。グループワークも体験談を話人が多く、今後も引き災害の講習会をやってほしい、災害時は独居高齢者や認知症高齢者の支援が難しい、自治会加入者は少なく情報共有や連携が難しい。課題はこの3つ。講義は大変参考になったが、今後どのように生かしていくのか具体的なことを</p>

委員	<p>知りたいという意見が多かった。</p> <p>目久尻川に沿った地域であり、関心をもって開催した。危機管理課からの説明が充実していて、参加者との話を深めるには時間が足りなかった。民生委員や自治会役員から意見をもらう程度に留まった。今後も地域の方とこのような話題に触れていきたいと感じた。</p>
委員	<p>地域性が大きく影響するようだが、他に意見や質問はあるか。</p> <p>参加者には自身の防災に役立てるとともに、情報弱者に対する防災の話の担い手になってもらいたいという思いもあつての開催だった。</p> <p>仕事の中で、高齢者や障害のある人と日々接する中で、防災に関して質問や不安の声を聞くことはあるか。</p>
委員	<p>訪問している方で、娘が母の面倒をみているが、娘は市外に就労していて、大雨の時にほぼ寝たきりの母を受け入れてくれる施設を知らなくて不安だと聞いたことがある。情報を手に入れるにはどうすればいいか、集まりには行けないような人はどうすればいいのか。仕事や介護で目一杯な人にも上手く情報が伝わり、不安を取り除くことが出来たらいいと思う。</p>
委員	<p>台風１９号の際に何人かから非難したいと連絡があった。避難先も水害の被害が心配な地域で、建物の２階に避難するにしても階段しかなくて不便だったという話は聞いた。</p>
委員	<p>医師会では、災害が多くなっていることから、地震や救急医療、養護の組織作りという話はあるが、座間市在住の医師が少なく、非常時に動ける人員がいいるのではないかと懸念もある。現状は課題のピックアップが主体である。体制作りは医師会でも考えている。</p>
委員	<p>在宅医療推進協議会からの報告</p> <p>座間市在宅医療・介護連携支援室から活動報告と今後の予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源の把握について <p>１１月１日付で相模が丘の「若武者ケア 座間事業所」が新規に開設され、アンケート調査を送付し回答待ちの状態である。</p> <p>令和４年２月に情報更新のために医療機関と介護事業所へのアンケートを実施予定であるが、内容を一部変更し、訪問看護と居宅介護事業所に看取りとあんしんノートについて項目追加予定である。２月頃郵送するので協力をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護の連携の課題の抽出

主治医意見書の事前問診票について、ワーキンググループを立ち上げ、3回開催した。ワーキンググループの顔ぶれとしては、座間市介護保険課認定係より2名、訪問診療を行っているクリニックより医師2名、座間市介護支援専門員協会から代表2名、地域包括支援センターの代表として新田宿包括支援センターより1名が参加している。事前問診票については3回のワーキングで検討し、必要であるという結論に至り、作成することになった。今後の流れは、令和4年4月より半年程度の試行を行い、その後検証し、令和5年4月から本格運用ができればと考えている。地域包括支援センター職員やケアマネジャーには試行段階から協力をお願いしたい。

- ・切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進について

介護事業所連絡会設立の支援を行っている。現在、仮称「医療連携連絡会」の開催を調整している。

- ・在宅医療・介護関係者に関する相談支援について

10月の会議以降の相談件数は2件。精神科病院の空きベッド情報の把握は、かながわ精神保健福祉センターでのみ把握しており、保健所では把握していない。ベッドの空き状況が分かったとしても実際入院可能かについては、別の話である。受診の必要があり、当日受診が可能なのは大和病院、本人が行けない場合は町田のつばさクリニックやちづのクリニック等に訪問を依頼するという選択肢がある。専門医に相談し必要性に応じて、入院可能な病院と連携をとってもらうのがよいのではないか。どこに電話すべきか分からないという場合は、連携支援室に連絡をしてほしい。

- ・地域住民への普及啓発について

令和4年3月に「人生会議」をテーマに市民参加型オープン研修会を実施する予定であり、年明けからワーキンググループを立ち上げ、準備を開始する。

- ・医療・介護関係者の情報共有の支援について

I C T「みまわりネットワーク」利用促進について、現在アカウント登録数121、連絡用の部屋が27、利用者の部屋が43件である。

11月26日より12月20日までの期間で、1回3～5名の小規模とし、全9回の開催を予定している。

県央5市の在宅医療・介護連携推進事業情報交換会は11月19日に大和市で開催されるため、相談員2名が参加をする予定である。

	<p>・医療・介護関係者の研修について</p> <p>第1回定期研修会を9月17日に「介護予防とロコモティブシンドローム」をテーマに井上整形外科の井上先生を講師に招き、ZOOMにて開催した。参加者は32名、アンケート回収できた18名全員が「とてもよかった」「よかった」と好評だった。</p> <p>第2回研修会を11月19日に「顔の見える関係づくり」をテーマにZOOMで開催予定である。モニター数定員60画面でグループワーク等多職種連携に関する内容を予定しており、11月12日にワーキンググループでリハーサルを実施する。その後、第3回研修会を令和4年2月までに開催予定で、今後準備を進めていく。</p> <p>相模が丘の事業所の名前をもう一度教えてほしい。</p> <p>若武者ケア座間事業所である。</p>
<p>委員</p> <p>委員</p>	<p>認知症初期集中支援チームより活動報告</p> <p>認知症初期集中支援チームのことは知っているか。</p> <p>名前は知っているが、何をやっているかについてはよく分からない。</p> <p>座間市では認知症集中支援チームは相模が丘包括内に設置されていて、対象は座間市全域とし、一つのケースにつき6カ月を目途に介入している。介入は認知症を発症して間もないケース、介入した時にかなり症状が進んでいるケースもある。チームには精神科医もおおり、意見を聞きながら対応している。</p> <p>以前、座間市認知症課題検討会議についての報告をしたが、今年度から認知症地域推進委員連絡会と名称が変わった。また、昨年9月に手引きの改定があり、この会議でも認知症についても話合う事が可能になったということもあり、活動報告をさせていただく。</p>
<p>委員</p>	<p>座間市では認知症の人が安心して生活できるまち作りとして平成28年4月に認知症初期集中支援チームを設置し、11月から本格的に取り組んでいる。概要は配布したチラシの吹き出し部分を参照してほしい。</p> <p>看護職、医療職、福祉職が本人・家族・支援者・医療機関・包括からの認知症に対する対応の仕方や受診先相談、ショートステイを含め入所先の案内、状況に応じてご本人、家族の許可を得たうえで受診同行をして本人の状況の説明不足、医師からのアドバイスをかみ砕いて伝え、介護保険サービス及び社会資源の利用に繋げる活動を座間市全域を対象と</p>

して行っている。

月1度定期開催をしている認知症初期支援チーム員会議で相模台病院の認知症サポート医の意見を聞きながら月平均約6件のケースを検討し、チームで包括、主に認知症地域推進委員、ケアマネジャー、サービス事業所担当者と連携し個別支援の活動をしている。

普及啓発活動としては、市が主催する認知症サポーター養成講座、つきいち教室、いきいきシニア運動教室などで認知症初期集中支援チームの案内をしている。個別支援や認知症関連のイベントを通して受診先や支援団体に向けても普及啓発活動を随時行っている。

もう一つの大きな活動として、約3年間認知症施策地域支援推進委員会と認知症施策推進員を発足当初から市と協同で開催してきたが、今年度から、より簡潔に活動報告ができるようにと認知症地域支援推進委員及び認知症初期集中支援チーム連絡会と改名し、チームが運営を担っている。実績の一例として、座間市簡易ケアパスの改定を含めて活動している。

相談業務については報告書を参照してほしい。令和3年度4月から9月からの半年間で相談件数は33件、チーム員会議で検討しているケースが終了したものも含めて20件。相談経路は、国の発足当初は包括支援センターからの依頼を受けて始動するということだったが、もともと包括内で支援活動が出来ていたこともあり、市役所等からチームへ支援依頼が来ても一部の包括では連携相談後は、包括内での処理となり、介入が叶わないケースがあるのが現状であり、情報交換をしている他市でも同様で相談経路を模索していると聞いている。

反面、普及啓発活動が実を結び、他市を含む医療機関、居宅支援事業所、または認知症サポーター養成講座に参加した知人から家族に伝わり直接相談を受けるケースが増えてきている。

MC I、物忘れがあるがまだ認知症ではない方のサポートも行っている。この状態で治療または適切な対応を心掛けると、症状が改善したり、現状を長く維持出来たりと、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくことができる。現実には、本人や家族には危機感がなくデイサービスや新たに地域の活動に加わる方は稀ではあるが、チームが根気よくモニタリングや本人・家族に正しい知識を伝えることにより、症状が顕著になった際、支援につながっているケースもある。何かあった時、頼れる場所があることは安心できると相談者や支援者からの声にやりがいを感じ

	<p>じている。</p> <p>その他のグラフについては参照してほしい。具体的には、一人で悩まず、専門家を含めてよりよい多くのアイディアを出し、個々のケースに合った方法を一緒に考えていくチームとして活動している。また、一般の方にも認知症になっても安心して暮らしていけるよう、必要な方には利用できるサービスをよりわかりやすく伝えるために活動を行っている。</p>
委員	何か意見、質問はあるか。
委員	資料の中に包括との連携はエリアによっては至らないという記載があるが、どのような流れなのか。チラシを見るとまずは包括支援センターへと書いてあるが、他の包括ではどのように初期集中支援チームと関わっているのか。
委員	ひばりが丘包括や新田宿包括とは一緒にチームと動いてくれている。家族から市役所等を経由し、一緒に動いてくれないかというケースが多い。歯科医院から直接包括に電話があり、認知症初期集中支援チームでやること、包括がやること、ケアマネや病院でやってくれるところ、専門職の特性を活かしながら一緒にやっていくという形である。
委員	包括内でも、本人が関わりを拒否しているような方、家族は何とかなしたいと思っているケース、一人きりで手に負えないケースなどもある。特殊なケースで包括でも十分に対応できない場合、初期集中支援チームと一緒に協力してもらおうと、少しずつでも解決の方向に向かうという感じである。比較的よく相談させてもらっている。
委員	認知症に特化して困難ケースになっている場合は支援チームと一緒に動けるケースがあるということ、動き方のイメージが分かった。
委員	認知症の対応では、人が変われば対象者の感情が変わるということもある。難しいケースがあれば、初期集中支援チームが介入すれば必ずしも改善するというわけではないが、何か役に立てることもあるかと思うのでお話しを頂けるとありがたい。
委員	個人の方から、病院を色々と渡り歩いているが、認知症の母のことでいいところがないかという相談があった。包括のことは知らないとのことだった。繋ぐ先として、包括がいいのか、初期集中がいいのか迷ったが、初期集中に繋いだ。包括へはこちらから繋ぐのだとってもらい、その後、確認したら要介護3の認定が下りたが、地域のサークル活動に参加していて、うまくいっているケースではないかと思う。

<p>委員</p>	<p>役割分担として初期集中支援チームを使うのもいいのではないかな。また、チーム員会議で精神科の医師の意見が聞けるということも貴重ではないかな。落としどころが違うところで関わって行けばいいのではないかなと思う。</p> <p>要請があったケースに関して、医師への相談のみならず、相模が丘包括の職員も毎朝のミーティングで情報を共有し、皆で検討している。初期集中支援チームの認知度がまだまだで上がってこない状況ではあるが、医師会や薬局、居宅事業所に挨拶に行ったりしている。今後、挨拶に伺うこともあるかなと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>その他 会議の運営について</p> <p>10月15日に初の試みとしてオンラインで第4回在宅医療推進協議会を開催した。14名の委員が参加し、意見交換を行うことができた。これに先立ち、9月13、15、16日の3日間でWeb会議のためのトレーニングを実施し、これにも多くの委員に協力をいただき感謝している。</p>
<p>事務局</p>	<p>介護保険課に限らず市役所としてもまだWEB会議を確立できていないという面がある。今回1回行ったが、今後まだ改善の余地があるということ、やはり対面会議にはかなわないということ等いくつかの気づきが得られた。事務局としては、今年度残り2回を試行としてWeb会議で開催したいと考えている。さらなる改善点やそれぞれのメリットを探っていきたいと考えている。</p>
<p>委員 委員</p>	<p>検討事項の一つとして開始時間について相談したい。前回は17時半で設定したが、今回は開始時間を30分遅らせて18時で行いたいと考えているが、何か意見はあるか。特にないようであれば、在宅の子会議に関しては18時からに設定させていただく。メールでのやり取りを何回か行う必要があるがご協力をお願いしたい。</p> <p>オンライン会議について何か意見はあるか。</p> <p>特になし</p> <p style="text-align: right;">以上</p> <p>【次回】在宅チーム 1月11日（火） 18時～ オンライン開催 包括チーム 1月18日（火） 14時～ オンライン開催</p>

